校 長 室 だ よ り（No.27）

令和５年１月10日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

こころと身体を動かす経験

お正月と言えば歌にもあるように、凧揚げやこま回しなど外遊びを思い浮かべます。しかしながら近所の広場に行っても子どもたちの姿はなく、凧揚げなどは滅多に見ることがなくなりました。始業式の後に子どもたちに聞くと、専ら家の中でゲームをしていたという子がほとんどでした。

子どもたちが外遊びをしなくなった、運動をしなくなった原因として、スポーツや外遊びに欠くことのできない３つの「間」である時間、空間、仲間の減少が考えられると言われています。

「国民生活時間調査」によりますと、小学生よりも少し大きい中学生と高校生のスポーツをする時間は、昭和50年から平成12年までの25年間で、中学生は減少、高校生はほぼ横ばいとなっています。また、「青少年の生活と意識に関する基本調査」の小中学生の休日の過ごし方を見ますと平成７年から５年間、テレビを見たり、ゲームをしたりするなど室内で過ごすことが増加し、外遊びは減少してます。このように、外遊びなど体を動かす時間が減少し、室内遊びの時間が増加していることが分かります。

空間の減少では、市街地を中心とした整備等で子どもたちの手軽なスポーツや外遊びの場であった空き地や生活道路が減少していきました。公園の整備や学校の開放、公共のスポーツ施設は増加しているものの子どもたちが自由に、好きな時間に遊べないなどの問題がでてきています。少年野球などユニフォームを着て組織的にスポーツをするための場所は整備されてきていますが、普段着で好きな時に来て、好きな遊びを少人数で遊んだり、好きなスポーツをしたりすることができる身近なあそび場は確実に減少しています。

仲間の減少では、話題の少子化が大きく影響しています。兄弟の数が減りスポーツや外遊びを一緒にする仲間となる子どもが減少しています。また、平日の放課後に遊びたくてもいろいろな習い事で自由な時間が取れなかったり、遊びたい子どもたちと時間が合わなかったりすることで仲間関係がつくりにくい状況になっています。子どもたちで群れることがほとんどなくなり、自分たちでクリエイティブに遊びを考え出すことがほとんどなりなり、ゲームなどの手軽で、人数に関係ない話題性のある室内遊びをすることがほとんどとなってきています。

学校においては、子どもに体を動かす楽しさを味わわせ、いろいろな運動を好きにさせたり、普段しない運動を経験させたり、子どもたちに限られた時間（体育の時間）で効率的に運動量を確保するなどに取組んでいます。子どもの体力の向上に関して意識的に取り組むことで体力を向上させ、また、いろいろなスポーツや外遊びに興味を持つように仕組んでいきたいと考えています。